第1回 那珂市瓜連支所利活用検討委員会 会議録

開催概要

- ・日時：令和7年8月1日（金）午後2時から午後5時10分まで
- ・場所：総合センターらぼーる2階視聴覚室
- ・出席委員（敬称略・順不同）
元木委員、久野委員、先崎委員、安島委員、萩野谷委員、寺門（眞）委員、大内委員、小寺委員、君嶋委員、會澤委員、庄司委員、生天目委員、寺門（純）委員、和田委員、小貫委員、石沢委員、友部委員、加藤委員、玉川委員、高塚委員（20名）
- ・事務局
玉川（副市長）、篠原（総務課長・司会）、川勾（総務課総括補佐）、桧山（行財政改革推進室長）、萩谷（行財政改革推進室）、鈴木（行財政改革推進室）
- ・傍聴者：12名（うち報道1名含む）

会議次第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員の紹介
- 5 那珂市瓜連支所利活用検討委員会設置要綱について
- 6 委員長・副委員長の選出
- 7 議 事
 - (1) 本日のゴール設定について
 - (2) 会議及び会議録等の公開について
 - (3) 会議の運営及び検討スケジュール等について
 - (4) 瓜連支所等の現況及び経緯について
 - (5) 庁舎利活用等の事例について
 - (6) 意見交換
 - (7) その他
- 8 閉 会

1 開会

○趣旨説明

- ・司会より開会あいさつ。
- ・本委員会は「瓜連支所の組織配置再編に関する基本方針」（令和6年3月策定）を踏まえ、令和12年4月の庁舎機能移設後の瓜連支所庁舎・分庁舎の今後のあり方について、市民視点で協議するため設置。
- ・今後の瓜連地域・那珂市の将来に関わる重要な議論であり、活発な意見交換を

行いながら、建設的な検討を進めてまいりたい。

2 委嘱状交付

- ・市長より直接交付は省略、各席に配布。

3 市長あいさつ

- ・瓜連支所は地域にとって長年親しまれてきた拠点。
- ・人口減少・少子高齢化・財政難の中、公共施設の見直しと地域資源の最適活用が必要。
- ・瓜連支所庁舎・瓜連分庁舎は、令和12年4月に庁舎機能の移転を進める方針。
- ・地域の特性を生かした活用策を多様な立場から検討し、将来にわたって必要とされる拠点となるか、地域活性化につながるかが重要。
- ・多様な立場から率直な意見を求める。

4 委員の紹介

- ・委員、事務局が順次自己紹介。

5 那珂市瓜連支所利活用検討委員会設置要綱について

- ・事務局より資料1も参照し説明。
- ・設置目的：令和12年4月に行政機能を本庁周辺に集約する方針に基づき、支所・分庁舎の今後のあり方を市民と協議・検討するため設置。
- ・主な役割：敷地・建物の活用形態・手法の検討、その他必要事項の協議。
- ・活用形態＝用途（何に使うのか）、活用手法＝実現手段・枠組み（どうやって使っていくか・どう決め、どう動かすか）
- ・任期：委嘱日から市長への利活用方針案の報告までとする。
- ・必要に応じ専門家等の出席・意見聴取可。

※質疑※

(A委員)：なぜこの検討が必要なのか、背景を丁寧に説明してほしい。

(事務局)：この後、これまでの経緯や背景について資料を用いて説明する。

6 委員長・副委員長の選出

- ・B委員から推薦あり。
- ・推薦内容を諮り、元木委員を委員長、先崎委員を副委員長に選出。
- ・委員長あいさつ：地元の思いが伝わってくることに感銘を受けた。地元の人々の思いを大切にしながら、地域の特性を活かした活用策を見出していくことを目指し、地域の未来を考えるために皆と一緒に議論を進めていきたい。
- ・副委員長あいさつ：カウンセリングマインドを活かし、発言の裏にある心理をくみ取る役割を担いたい。前向きで建設的な意見を頂戴し、本委員会をより良い方向に行くように努めていきたい。

7 議事

(1) 本日のゴール設定について

- ・事務局より説明。
- ・①委員会運営の決定、②瓜連支所の現状理解と住民ニーズの共有、③次回までの情報・議題設定。

(2) 会議及び会議録等の公開について

- ・事務局より、会議公開・記録方針について、5つの方針（案）を説明し、委員に諮り、下記のとおり決定した。

○会議公開・記録方針

- ・会議は原則公開、傍聴可。
- ・資料・会議録は市ホームページ・窓口で公開。
- ・会議録は要点記録とし、発言者の氏名は記載しない（ただし事務局で発言者記録は保管）。
- ・会議録は全委員の確認後に確定。
- ・YouTube 配信・アーカイブ保存はプライバシー保護の観点から実施しない。

※質疑※

(A委員)：責任ある発言のためには発言者の氏名を記載すべきでは。

(事務局)：公開文書は氏名非記載、内部記録は氏名記載とする。

(C委員)：YouTube 等 SNS での情報公開は若者への情報発信に有効であり、今後のためにも検討すべきでは。

(委員長・事務局)：現時点ではプライバシーの保護を優先し、実施しないが、今後は事務局と相談しながら柔軟に対応していく。

○傍聴ルール

- ・受付票記入、静粛、飲食・撮影・録音禁止、必要時退席要請可。
- ・会議・資料・会議録は原則公開とするが、必要に応じて一部非公開とする場合もある。

※質疑※

(C委員)：傍聴席での飲食範囲は。

(事務局)：飲み物程度は可である。

(D委員)：会議等は原則傍聴可能で、非公開の場合もあるという解釈でよいか。

(事務局)：内容によっては、委員会で判断し非公開とする場合もある。

○会議運営

- ・意見・質問は次回までに整理し共有。市内部調整が必要な場合は協議後共有。再確認・再協議事項は次回会議で扱う。

- ・委員会結果は市ホームページで随時公表、市議会にも適時報告。

(3) 会議の運営及び検討スケジュール等について

- ・事務局より説明。

○検討スケジュール

- ・長期目標：令和12年4月以降の利活用開始。
- ・検討期間：約5年間の検討期間を前半・後半に分け、今回委員が協力いただくのが前半。
- ・中期目標（前半）：令和9年度末までに検討委員会として「利活用方針案」をまとめ市へ提出。後半で具体化。
- ・利活用方針案：「主体（誰が担うか）」「対象範囲」「実施手法」「利活用の目的」といった4つの基本的な方向性を盛り込む。（資料2参照）
- ・想定する利活用カテゴリー：公共利用、地域利用、公共公益団体利用、民間利用、建物解体後の利用、複数組み合わせの利用の6カテゴリーで検討。
- ・会議予定：今年度は8月に2回、12月に1回、翌年度は6月・8月に各1回、計5回開催予定。
- ・ニーズ調査：事業者向けの可能性調査、市民向けのワークショップ、アンケートも実施予定。

※質疑※

(E委員)：事業者向けサウンディング調査に委員は参加できるか。

(事務局)：委託先の業者とすでに調整し、実施しているため、委員の参加は想定していない。なお、第3回会議で結果を報告予定である。

(C委員)：委員会の結果は市ホームページで公表するとあるが、ホームページを見られない高齢者などへの対応は。

(事務局)：会議の結果はホームページでの公表と本庁舎・支所の窓口での閲覧予定。回覧板などの活用は現時点では考えていない。

(A委員)：会議のテーマや課題の説明がなく、スケジュールだけが先行している。なぜこの課題に取り組むのか、丁寧な説明が必要ではないか。

(委員長・事務局)：真摯に受け止め、今後は委員ご指摘の課題や背景の説明を丁寧に行うよう事務局と調整する。本日はこの後現状説明をするとともに、全体を通じた意見を聴取する場があるのでそちらで対応したい。

(F委員)：ワークショップ開催時、市民の幅広い参加や周知のため、ペーパー（瓦版等）での案内も検討してはどうか。

(事務局)：市としても広く取り組みを知ってもらうことは重要と考えており、やり方も含めて検討する。

(4) 瓜連支所等の現況及び経緯について

- ・事務局より資料3も参照し説明。

○瓜連支所の現況・経緯説明

- ・支所・分庁舎は老朽化（築 39 年・30 年）、敷地約 5,800 m²で市所有。
- ・那珂市は人口減少・高齢化が進行、公共施設の老朽化も深刻。
- ・財政も厳しく、公共施設の維持・更新費用が増大、現状維持は困難。
- ・令和 5 年 10 月以降、議会・住民説明会・パブリックコメント（490 件）・要望書提出等を経て、令和 6 年 3 月に基本方針策定。
- ・パブリックコメントでは、利活用案として歴史民俗資料館、公文書館、学童保育、地域活動拠点、喫茶店、災害時施設、コンビニ等多様な意見。
- ・市街化調整区域のため用途制限がある。ただし一部例外もあるため、今の段階では自由な発想で検討を。

※質疑※

- (A 委員)：なぜ他の施設ではなく、瓜連支所が対象なのか、他の公共施設との比較やインフラ投資との優先順位の説明が必要である。また、市民に対しては、過去の経緯や検討対象選定の理由を、簡潔な資料やスライドを使って視覚的に提示すべきである。
- (D 委員)：初参加者には疑問があるのも理解できるが、昨年 2024 年 1 月に説明会があり、委員はこれまでの流れを理解して応募されている認識だった。
- (委員長)：会議の位置づけや経緯の説明不足を踏まえ、今後は検討課題や会議の位置づけを明確化し、必要に応じて資料を用いた説明を行う方向で事務局と調整する。
- (G 委員)：現在は「利活用を検討する」方針で協議が進んでいる。この経緯を踏まえて議論を始めないと、時間や会議回数が増える可能性がある。事業者や市民の動きを考慮して本来の検討を早く進めるべきである。
- (事務局) 2023 年 12 月に基本方針案を公表し、パブリックコメントを経て正式策定した。この基本方針に則り、今回検討委員会が立ち上がり、建設的に前に議論を進めていく段階と考えているので、ご協力をお願いしたい。
- (G 委員)：マネジメント計画及び行動計画が策定され、その中で 10 年計画が示され、瓜連支所を存続させる旨が記載されている。そのようななかで、瓜連支所についても廃止前提の方向に進んでいるように感じられるため、その経緯について聞きたい。
- (事務局)：現行のマネジメント計画では、瓜連支所及び分庁舎は長寿命化を図る施設と位置付けている。行政庁舎の集約は、証明発行業務を行う支所窓口は地域に残す前提で、教育委員会と上下水道部が住民にとって普段使いの窓口ではないことから、主に瓜連地区の住民サービスの低下を招かないと評価している。庁舎の集約により、将来的な利活用の検討が必要となり、今回の委員会で今後の方向性を議論する。

(5) 庁舎利活用等の事例について

- ・事務局より資料 4 を参照し説明。
- ・新潟県南魚沼市：旧議場をコールセンターに転用、雇用創出・改修費抑制、賃

料補助。

- ・宮城県石巻市：寄贈百貨店を新庁舎に転用、1階を商業スペース化し歳入増・駅前活性化。
- ・新潟県魚沼市：合併で残った旧庁舎をワークショップ・サウンディング調査で用途決定。

(6) 意見交換

- (H委員)：誰もが利用できるコミュニティ拠点や健康づくり、心の安らぎ、生きる喜びを得られる複合的な施設が理想である。官民連携による運営形態も有力な選択肢と考えている。
- (I委員)：学習スペースや子ども食堂、親子で気軽に利用できる食堂など、子育てに優しい施設や支援が必要と考えている。
- (B委員)：教育や医療など、地域の魅力となるテーマを持ち、世代を超えて元気に育つことができる施設が望ましい。
- (G委員)：耐震性のある避難所機能や、歴史・情報拠点、商業施設の併設など、複合的な施設が必要と考えている。
- (C委員)：家庭菜園の余剰野菜を販売できる直売所や、高齢者が元気に活動できる場、世代間交流の機会があると良い。
- (A委員)：民間活用の場合、コストパフォーマンスが成立しないと民間は参入しない。郵便局は民営化されたが、高齢者サービスとして重要で、市がサポートすべきである。アンケート調査は誘導的になりやすいので、サンプリング方法や第三者チェックが必要と考えている。
- (J委員)：支所は築39年、引き渡し時には約44年となる。現状の維持管理を考えた時に、事業所が見つかれば買い取りが理想と考えている。もし見つからなければ支所は解体し跡地を有効利用すべきである。郵便局はバリアフリーでなく使い勝手が悪いので、分庁舎の1階に郵便局を移転し、2階は会議室や学童などに活用、市の負担を軽減しつつ有効活用すべきである。
- (E委員)：解体には費用がかかり、売却金額が上回るか不透明である。官民連携で収益化し、若い世代に負の遺産を残さない施設運営が望ましい。市民や若者のニーズを反映し、民間事業者と協力して特色ある施設を作るべきである。
- (K委員)：保護者の意見等も踏まえて、子どもの居場所が減っているので、支所をそのような用途に活用してほしい。もし将来解体する場合は子育て支援住宅などを整備し、若い世代の定住を促すべきである。

※質疑※

- (E委員)：民間等での活用を考える際、隣接グラウンドと連携した活用案も除外せずに考えてよいか、また市の所有か。
- (事務局)：市所有であるが、小学校グラウンドであり、現時点で一体活用は想定していない。
- (E委員)：道の駅や県植物園などとのニーズや用途重複を避けるため、最新情報が

ほしい。

(事務局)：可能な範囲で情報提供する。

(B委員)：郵便局の今後の取扱いは。

(事務局)：民間企業であるため確定的なことは言えないが、地域に必要なとの認識である。建物に残す・移転等、いずれにしても地域に残れる方向で可能な限り協力したい。

- ・元木委員長が以下のとおりまとめた。
- ・事例としては行政拠点や企業、子どもたちの学びの場としての活用などがあるが、商業施設は継続が難しい場合もある。場所によって利便性や人口動態を考慮する必要がある。皆様の意見を収集し、今後の検討に活かしたい。

(7) その他

○今後の会議日程

- ・次回：8月19日(火)14時開始。(疑義があったが午後開催で決定)
- ・第3回は12月中旬予定。

※質疑※

(C委員)：開催時間を朝(午前中)にできないか。

(他委員)：午前中は仕事で参加困難である。

8 閉会

以上